



TITLE:

<卒業生は今>代議士の誕生

AUTHOR(S):

武藤, 貴也

CITATION:

武藤, 貴也. <卒業生は今>代議士の誕生. 公共空間 2013, 10: 26-28

ISSUE DATE:

2013

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/177902>

RIGHT:

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載・二次利用はお断りいたします

【卒業生は今】

代議士の誕生

京都大学公共政策大学院二期生（衆議院議員）

武藤 貴也

本大学院が最初の卒業生を送り出してから、この春で五年が経過した。彼らの進路は千差万別であり、日本の政策決定に携わる者も数知れない。今回はその一人である、前回の衆議院議員総選挙で見事初当選を果たした本学二期生の武藤貴也氏にその志を伺った。（聞き手 矢野智史）

政治家を志したきっかけを教えてください。

『私には守りたい日本がある、先人たちがこんなに素晴らしい日本を残してくれたのだから』。私のホームページにも掲載されていますけど、このフリーズに分かりやすく表したつもりです。僕らの国日本は非常に豊かな生活をしています。生活保護という制度もあるし、お金がなかったら学費が免除される。義務教育なので字も書ける。蛇口をひねれば水が出る。最低限の生活が保障されています。世界を見渡せば必

ずしもそんなことはありません。自分の名前も書けない子どもがいるし、生活保護制度もなく、国民皆保険もない国がたくさんあります。じゃあこれは誰が創ったんだというと、

言うまでも無く私たちの先祖です。先祖が創ってくれた素晴らしい日本を守っていくというのが、保守の理念であるし僕の政治哲学です。そう考えると靖国神社に行かなければなりませんよね。今日の日本の安全と繁栄は、彼らの尊い戦争の犠牲の上にあるのですから。そういう保守の哲学を持って政治家を志したわけです。」

保守の哲学とは为什么呢。

「本来の日本を取り戻すことです。敗戦の経験が日本を歪めています。僕らの価値観、歴史、文化、それらが戦後破壊されました。僕らは子どもの時から国民の三大原理を教わりますよね。国民主権、平和主義、基本的人権の尊重。これらに共通しているのは、個人を優先させているという点です。国民主権、基本的人権の尊重はもちろん、平和主義の目的も個人の命を守ることです。しかし、これら三大原理は戦前には全

部ありませんでした。生存権という最も大切な基本的人権だって、戦争のときは制限され、公共の福祉の方が優先されるという考え方でした。日本人の精神というのは滅私奉公なんです。個人を滅して公に捧げる。よく引き合いに



衆議院第一議員会館内の武藤氏の事務所にて（左手が武藤氏）。

出されるのは、東北の震災です。『絆』というキーワードで皆それぞれが助け合いました。カトリックにしたって、四川の大地震にしたって、略奪強奪で秩序など維持されないわけです。

日本の場合、秩序を維持するために、食べ物や水をも分け合って、奪い合うことがなかったわけです。これには世界中がびっくりしました。保守派の人が良く言うのですが、私たちは、自分の命を犠牲にしてまで公のために尽くすことに感動を覚える民族だったんです。個人よりも公を大事にする精神。そういう様々な価値観が、アメリカから来るデモクラシーやフリーダムのような考え方によって戦後ぶっ壊されたわけです。憲法改正が最近話題となっていますが、九条改正とかそんな単純な話ではない。あそこに流れている三大原理が日本に合っていない。ぶっ壊された美意識や価値観を取り戻そうとするのが私たちの使命です。」

議員になるまでの過程について、選挙の苦労話を含めてお聞かせください。

「大学院時代から、滋賀県の県議会の会派で政策担当スタッフをやっていました。その後、自民党の滋賀県四区支部長の全国公募に応募しました。ただ、民主党が躍進した二〇〇九年の衆議院議員総選挙で落下傘候補として初出馬したときは、五〇年に一度の大逆風でしたから苦しかったです。でも落選して、この世界は工夫で通らないことが良く分かりました。本当の勉強です。チャレンジしなければ分らないことは



麻生財務大臣とともに。武藤氏は、麻生派に所属している。

たくさんあります。落選してから三年半活動して思ったことは、選挙と政治は別ということですね。選挙は本当に地道な作業です。一票一票の積み上げです。色々なイベントに出たり、後援会を組織したり。一番苦労したのは、やはり政治資金です。三年三か月どうやって生活していくか。しかも政治活動もしながら。私の場合は、地元の支持者からの献金でなんとか。落下傘（注一）ということもあり、地元人間関係を持っています。でも、本当につらかったで

す。」

武藤さんは、外務委員会と安全保障委員会に所属されています。落下傘候補ということ踏まえると、有権者の受けが比較的良いと考えられる農林水産委員会や国交委員会を選んでも良かった気がしますが…。

「公共事業ももちろん大事です。ですが、国全体の利益や外交安全保障といった大きなテーマに取り組むのが国会議員の大きな役割の一つではないでしょうか。私はそうあるべきだと思います。それに、最近有権者は二層構造になっています。自治会長さん、市議会議員さん、県議会議員さんという内輪の人たちの票は、ある程度固められますけど、ある程度なんです。外（一般の有権者）の人間の方が圧倒的に多い。内輪の人間というのは、古い考え方のままで、道路を拡幅してくれ、河川改修してくれ、農地の土地改良の予算を増額してくれとか、もっと大きいこと言うと、高速道路とか新幹線とかいろいろ要望してくるわけです。外の人たちは、逆にまったく地域のことに関心がない。彼らを持つ情報源はテレビですから、テレビで放映されている竹島とか尖閣とかに関心があります。有権者は、大きなことに関心を持ち始めているんです。」

今一番力を入れている仕事は何ですか。

「私は、外務委員会に所属していることもあり、外交に力を入れています。TPPが一つです。TPPは、しばしば関税の問題であると言われますが、関税を撤廃すれば輸出が伸びるとか単純なものではない。非関税障壁の方が重要な問題です。非関税障壁というのは、その言葉の中に、いろんなものが含まれている。うちの地元は近江米と近江牛の産地ですが、これらを輸出しようとすれば、政府が輸出先とどういう関係を築いていくかが陰に陽に求められます。

端的な例を言うと、マレーシアに和牛が入っているんですけど、百パーセントオーストラリア産の和牛です。日本からはステーキ一枚入っていない。日本の和牛をオーストラリアに種だけ持って行って育て上げ、和牛と称して売っているんですね。なぜ、日本の和牛はひととき流行らないのか。一つは口蹄疫の問題です。もう一つは、ハラル認証。これは、食品をイスラム教の戒律に従って処理したという認証です。これがないとイスラム教徒の人は肉が食べられないから、売り手側からすると商売にならない。これがものすごい利権で、日本はそれに阻まれて、うまく商売ができていない状況です。これ以外にも、『障壁』が複数あります。どこの国も大なり小なり情報機関とか工作人員がいるわけで、日

本にはいない。米国はCIAがあり、四十兆円の前算を持っており、人生かけている情報のプロがいます。どうやってアメリカと対等に交渉するんですか。TPP賛成派の人はそういう点を詰めてないと思います。負ける見込みしかない。農業を守れ、医療を守れ、金融を守れ。どう守っていくか、盾の議論しかしていない。矛の議論をしていない。その矛の議論をなんとかしようとしているのが、現在の仕事です。」

最後に後輩にメッセージをお願いします。

「理論も必要ですが、ケーススタディだけでなく、もつと現場レベルでどういう課題があるのかを体感した方が良いと思います。例えば、おじいちゃん、おばあちゃんたちが、大体いくらぐらいの年金をもらって、どういう生活をしているのかということから見ていけば、年金って月々どれくらい必要なのか実感として分かってくるじゃないですか。そうすれば、制度設計をするに当たり、現役世代がどれくらい負担すれば良いかが導き出せますよね。それと最後に言いたいんですが、志を持ってほしいですよ。公共政策は、広いテーマかもしれませんが、結局公共の幸せを目的とするわけですよ。せっかく公共政策を学ぶわけですから、公共のためになる仕事に就いて、ここで学んだことを社

会に貢献してほしいです。滅私奉公の精神です。政治家を目指す人は是非うちの事務所の門を叩いてください(笑)。きっかけになると思います。Boys be ambitiousですよ。あは、和訳がうまいと言われています。『少年よ大志を抱け』それだけです。」

(注一) 落下傘候補：各選挙において、その土地に地縁、血縁の無い人間が立候補すること。

